卒業論文を書くにあたって、とか

亀山 真典 @ 愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター

本題に入る前に: 「人の振り見て我が振り直せ」

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

質問: みなさんはこれまで多くの授業を受けてきた中で、こんなふうに思ったことはありませんか?

- 「授業中に口で言われただけじゃあ、覚えてないって」「プリント配るとか、せめて板書するとかしろよ」
- 「1 回聞いただけで、覚えられる訳ないよ」「そんなに大事なことなら、何回も繰り返し言えって」
- 「ヘタクソな授業だなぁ」「聞いてもらう気あんのか?」「もっと真面目に準備してから来いよ」

「立場が変わると、言うことも変わる」ってのも
この世の中ではよくある話ですが、

いざ自分が「成果を発表する」側に回った時には、聴衆にこれと同じような思いをさせてはいけないでしょう。

分かってもらえるレポート・論文の３つの条件

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」
(講談社現代新書) によると...

1. 自分のコトバで語る努力をしている
2. 先人を少しでも乗り越える努力をしている
3. 読む人を説得する努力をしている

たぶんこういうのは、卒業論文に限った話ではないはず。
将来の仕事中に出くわすプレゼンテーションでも同じ。

「自分のコトバで語る努力」とは

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

自分の論理・理屈を前面に出すための努力

- 人様のコトバをそのまま拝借して語るのでは×
  理屈ごと人様の借り物になってしまう!!
- 自分のコトバで語るための準備として、自分の頭でよく考えて、自分なりの理屈を作っておこう
  - 人様の理屈を拝借する場合でも、必ず自分のコトバに「ほん訳」しておくべき
  - 「英語の直訳」調のコトバも、同じ理由で嫌われる
    (「ほん訳」になってない)
- 必ずしもパーフェクトな理屈でなくても OK
  - そんなものを卒論生がいきなり作れるなんて、誰も思ってない　(亀山は「若造ごときにできてたまるかい」と思ってます)
    だからこそ「指導教員」という存在があるんです

「先人を少しでも乗り越える努力」とは

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

他者と自分との違い (=オリジナリティ) を見つける努力

- 先人の研究に (ほんの少しでもいいから) 新しい知見を追加する.....そもそもこれが 学問の進歩 そのもの。
- 自分の論文を書く上で手っ取り早い (と亀山が思っている) 手段は、「仮想敵国」となる論文を選ぶこと。
  - そのテーマの重要性とか意義とか、過去の研究の簡単なレビューは、「仮想敵国」の中にまとめられているはずだから、その論理にうまく「タダ乗り」して OK
  - 「仮想敵国」が十分検討していない点を見つけ、その重要 (かもしれない) 性を指摘すれば、自分の研究の意義がアピールできる

これまで「課題」として講読してきた論文や資料には、「仮想敵国」としての利用価値があるはずです。

「読む人を説得する努力」とは

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

自分の考えを相手に正確に伝え、苦労なく理解してもらう

- ていねいに、分かりやすく語る
  文は短くするとか、図・グラフを見やすくするとか
- 聞き手 (読み手) の好意・努力をアテにしてはいけない
  苦労してまで他人の話を聞いて分かろうなんて思わない
  (自分が講義を聞いてるときもそうだったでしょ!?)

亀山がプレゼンする際に心掛けているのは

1. 重要な主張は、必ず文字情報にして表示する
2. 図・表の中でも、重要な点に視線を誘導する
3. 内容を適切に表現した見出しをつける
4. 話のつながりを明確にする (前のスライドとの関係とか)

口頭発表の原稿は「書くべきか、書かざるべきか」

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

亀山は**原稿は絶対に書くべき**だと信じています。

発表の際に原稿を「読むな」と主張するヒトは世の中にいますが、「書くな」と主張するヒトは (まず) いません。

発表原稿を書くメリット

- 文章にすることで、思考の整理が格段に進む。(本当)
- 説明に漏れ・遠回りがないかの確認ができる。
- 発表に要する時間の見積りができる。
- 発表中に万が一「テンパっ」ても安心。
- 発表原稿をふくらませれば、卒論の本文になっている。

本番の発表で「読む」「読まない」は別にしても、原稿を書く手間は必ずプラスになって返ってきます。

とはいっても、「書く」ってのはやっぱり大変なもので

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

かくいう亀山も毎回「産みの苦しみ」を味わっています。

どうにかして「テンションを up」するためにも

- 一撃必殺で「完璧なものを作ろう」と思わないこと!!
  - 「作る」→「読む」→「直す」のサイクルを何度も繰り返すうちに、品質はどんどんよくなっていく
    (「課題研究」の発表ポスター作りもそうだったはず)

亀山も 10 回くらいは自分の論文原稿を読み直してます

- ラフなものでいいから、まずとにかく作ってみること!!
  - 先人の論文の「猿真似」からスタートしても OK
  - 最初の「たたき台」があるだけで、以降の作業が格段に進めやすくなる (効率的にも心理的にも効果アリ)
- 煮詰まったら、他の人の頭を借りてみること!!

亀山に論文原稿の添削を依頼するにあたって

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

みなさんにお願いしたい (必ず守ってほしい) こと

- ❑ あまり長くない区分ごとに持ってきてください!!
  (例えば「章ごと」「節ごと」「段落ごと」とか)
  - ✏ 「完成品のつもりの原稿全体」に一気に手を入れるのは、現実的に不可能だし、とにかく効率が悪すぎる
  - ✏ 「できた分」だけ持ってきてもらえるほうが助かる
- ❑ 「原型が残らないくらい真っ赤に直された」としても、決して気に病んだりしないでください!!
  - ✏ そういう時ほど、実は深刻ではない修正だったりする (文の順番を入れ換えたり、違う表現に言い直したり)
- ❑ 「亀山はなぜこう直したんだろう?」と、返ってきた原稿を読み返して熟考してください!!
  - ✏ この「復習」が最もスキルアップにつながります

参考になる文献とか

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

買ってでも読む価値のある (と亀山が思う) 本。

- 小笠原喜康「新版 大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書)
- 田中幸夫「卒論執筆のための Word 活用術 – 美しく仕上げる最短コース –」(講談社ブルーバックス)
  ... 本当は Word なんぞ使ってほしくないのですが、それはそれ。
- 木下是雄「理科系の作文技術」(中公新書)
  .. このテの本では定番中の定番。ただしちょっと文章が難解かも。
- 杉原厚吉「理科系の英文作法 –文章をなめらかにつなぐ四つの法則–」(中公新書)
  ..... 日本語の文章を書くときにも同じ技術がそのまま使える。
- 後藤武士「読むだけですっきりわかる国語読解力」、「～続・国語読解力」 (宝島 SUGOI 文庫)
  ..... 国語への苦手意識の強い人は読んでみるといいかも。

杉原厚吉「理科系のための英文作法」より

- 人の振り見て
- どうあるべきか
- 自分のコトバで
- 先人を越える
- 読む人を説得する
- 発表原稿を書こう
- 産みの苦しみ
- 亀山からのお願い
- 役に立つ文献
- 話の道筋に道標を

第 2 章「話の道筋に道標を」より抜粋。
次の 2 つの文章を比較してみると、「道標」となる語句の役割と、論理展開における重要性がよく分かるでしょう。

> コンピュータはあらかじめ決められたプログラムにしたがって機械的に計算をする。一方、そろばんは人が動かさなければならない。その動かし方は機械的で誰がやっても同じであるとはいうものの、とにかくコンピュータはそろばんよりはるかに計算が速い。したがって、コンピュータとそろばんは本質的に異なるものである。

> コンピュータはあらかじめ決められたプログラムにしたがって機械的に計算をする。一方、そろばんは人が動かさなければならない。しかしよく考えてみると、その動かし方は機械的で誰がやっても同じである。コンピュータはそろばんよりはるかに計算が速いとはいうものの、実はコンピュータとそろばんは本質的に同じものである。